

おでかけなんじいの運行見直しについて
(たたき台)

令和5年11月

南 城 市

1 おでかけなんじいの利用状況について

1.1 再編時におけるおでかけなんじいの運行計画の見直し状況

- 2019年の公共交通の再編により市内の移動を担うNバスが誕生、おでかけなんじいの役割は、市内公共交通の中心的な交通手段から、Nバスを補完する役割に変化しました。
- 再編時にはおでかけなんじいの運賃の見直しも行われ、75歳以上は300円が200円に引き下げ、75歳未満は300円から500円に引き上げられました。なお、Nバスの運賃は中高生以上300円で、市民向けに割安の回数券が販売されています。
- おでかけなんじいの位置づけが変化したこともあり、2019年12月より運行車両が10人乗りから5人乗りへ縮小しています。

表-1.再編時における「おでかけなんじい」の運賃の見直し内容

種別	区分	再編前		再編後	
		通常料金	回数券	通常料金	回数券
市民	大人	300円	250円	500円	—
	小中高校生	300円	250円	500円	—
	未就学児	無料	無料	無料	—
	75歳以上	300円	250円	200円	—
観光客 (市外)	大人	300円	250円	500円	—
	小人	300円	250円	500円	—
	未就学児	無料	無料	無料	—

1.2 利用者数の推移

- おでかけなんじいの利用者数は、再編前は80人/日前後の利用がありましたが、再編後は、コロナ禍で50人/日前後に減っている時期もありましたが、60人/日前後で推移しています。
- なお、令和5年10月の利用者数は63.9人/日となっています。

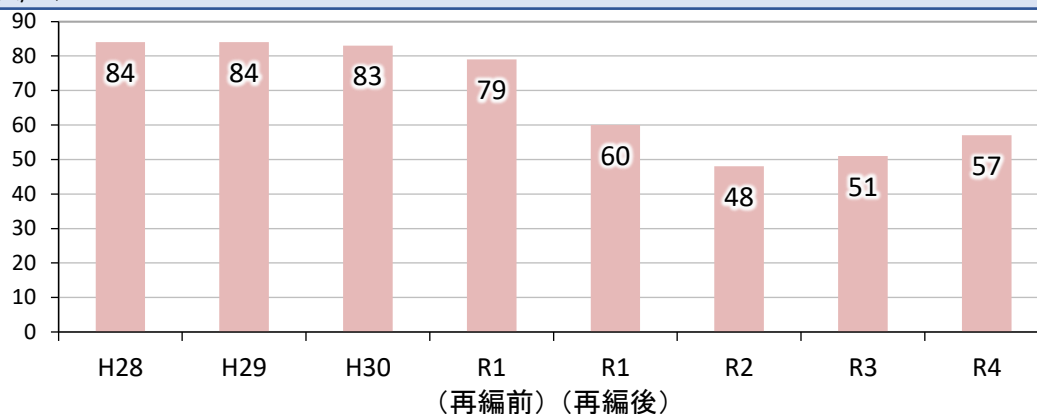


図-1.おでかけなんじいの利用者数の推移

1.3 平均乗車人員の推移

- 1 便当たりの平均乗車人員は、運行見直し基準設定時（H28）の 2.8 人/便から R4 現在は 2.1 人/便に減少しています。

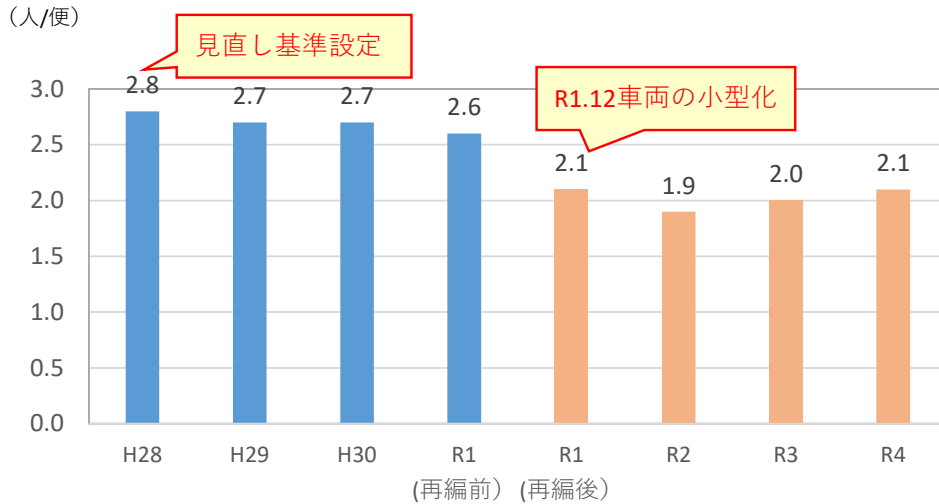


図-2.おでかけなんじいの 1 便当たりの平均乗車人員の推移

1.4 年代別利用者数の推移

- 運賃見直しの影響が大きく、75 歳以上の利用者が再編前の約 1.6 倍に増加、現状では 8 割近くを 75 歳以上の利用者が占めています。

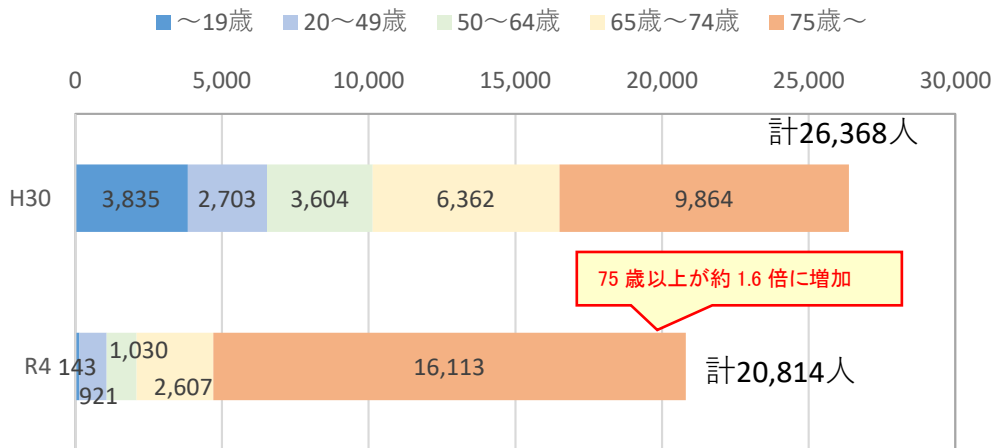


図-3.おでかけなんじいの年代別利用者数の推移

1.5 ヘビーユーザーの利用状況の推移

- おでかけなんじいの利用者を、ヘビーユーザー（おでかけなんじいの総利用回数の上位 50% を占める利用者）とライトユーザー（ヘビーユーザー以外）に分けて整理しました。
- ライトユーザーの人数は、大幅に減少していますが、利用回数が多いヘビーユーザーは微減にとどまっています。その結果、令和 4 年度は上位 75 人（5.4%）で全利用回数の 50% を占める状況になっています。



図-4.おでかけなんじいの利用頻度別利用者数の推移

～参考 おでかけなんじいの地区間の利用状況～

- ▶ 令和4年度全体の利用者の主な利用区間は、下図に示すとおりであり、津波古を中心に多くの利用がみられます。

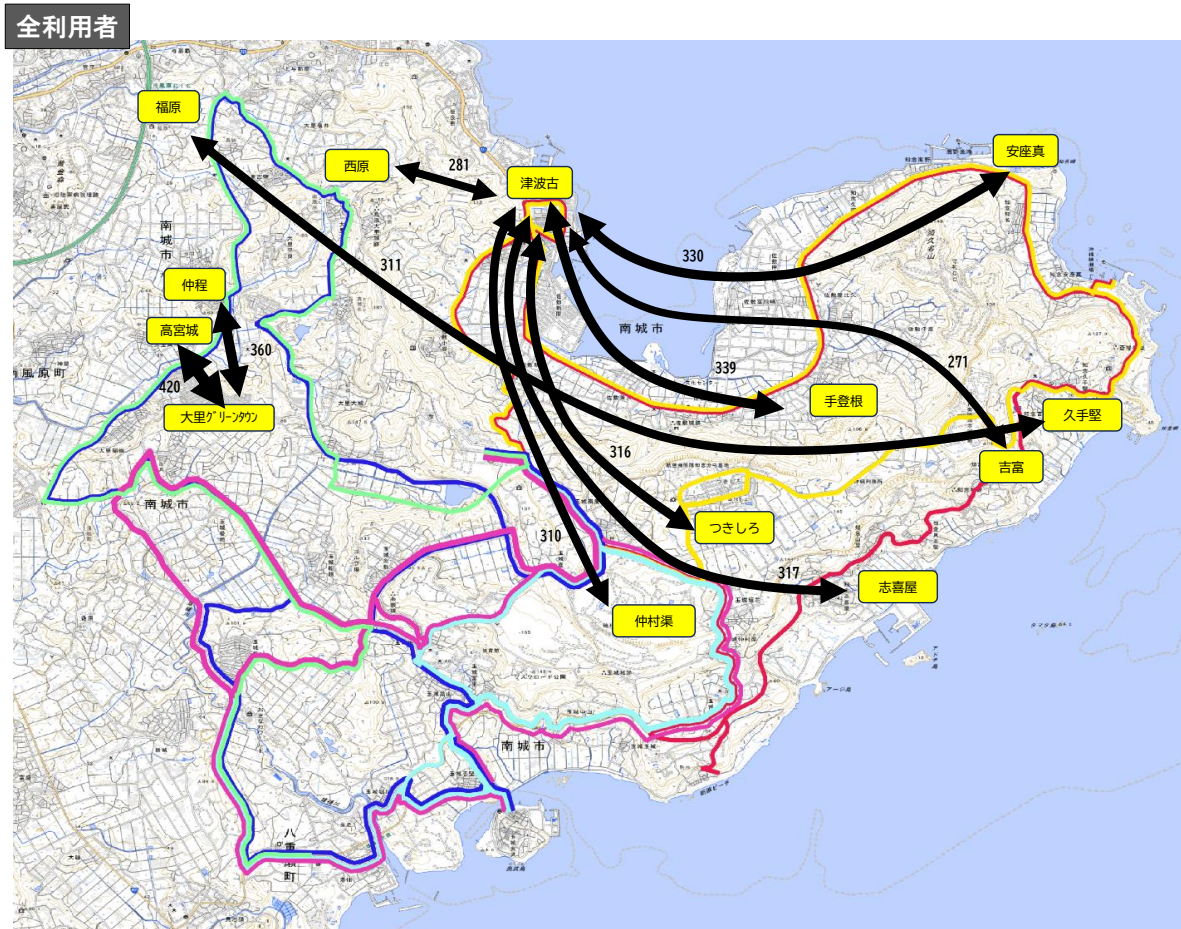


図-5.「おでかけなんじい」の利用が多い区間(R4年度、上位10区間)

- また、参考までにヘビーユーザー（利用回数上位約5%、全利用の50%）と一般ユーザーの主な利用区間をみてみると、ヘビーユーザーは津波古を中心とした流動や、大里地区内での流動が多くなっています。
- 一方、一般ユーザーの利用区間をみてみると、こちらも津波古を中心とした流動となっており、津波古地区から南側、大里地区内の南北方向の移動が多くなっています。

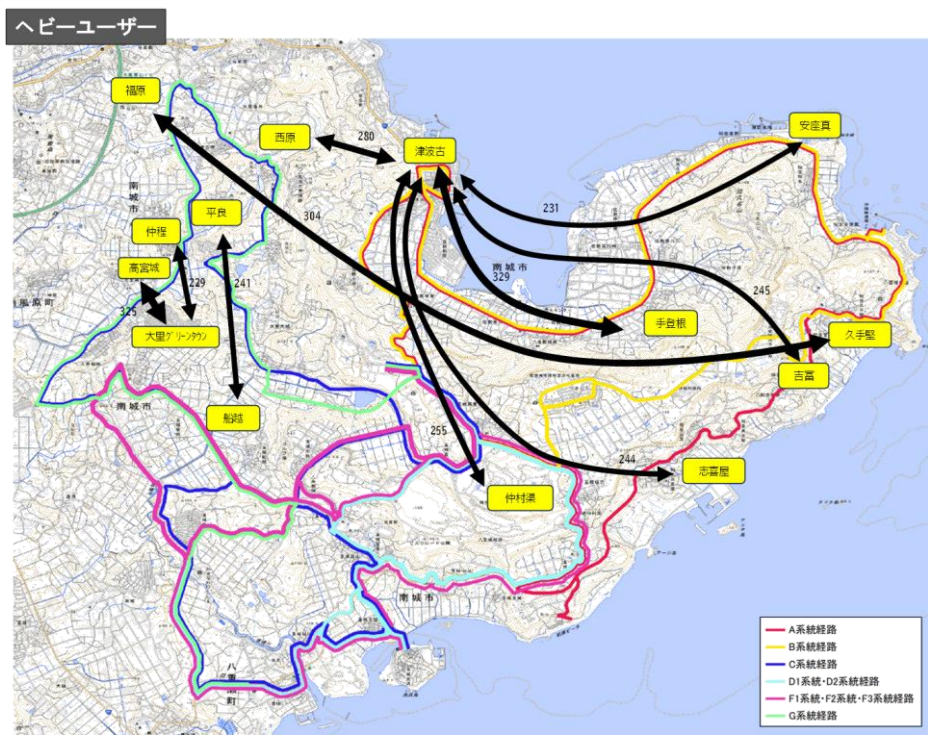


図-6.「おでかけなんじい」のヘビーユーザーの利用が多い区間(R4年度、上位10区間)

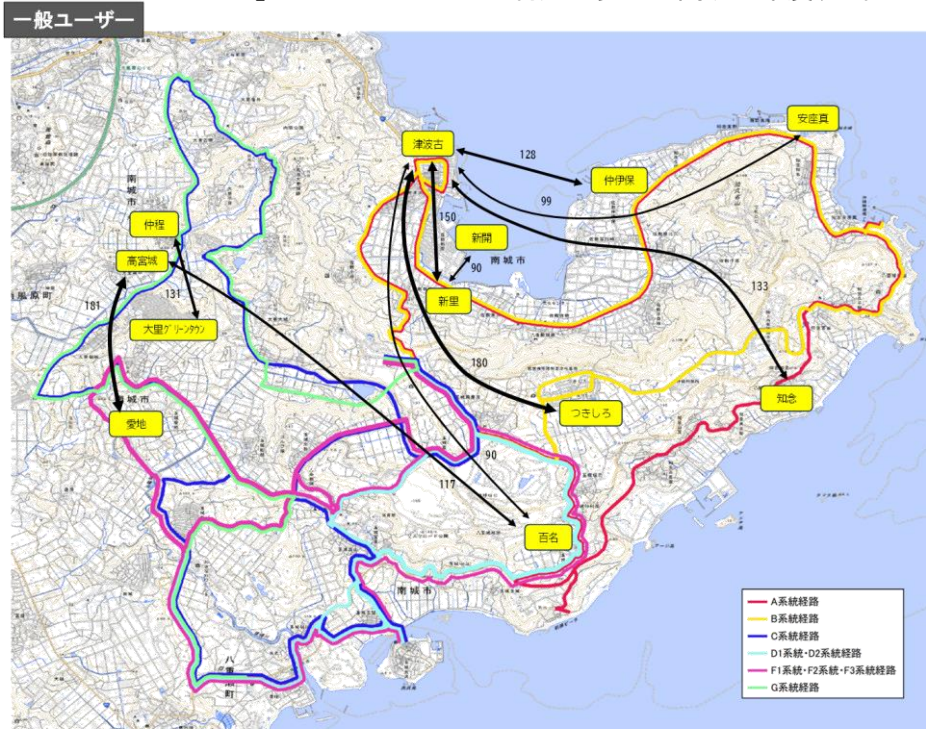


図-7.「おでかけなんじい」の一般ユーザーの利用が多い区間(R4年度、上位10区間)

2 おでかけなんじいの問題・課題

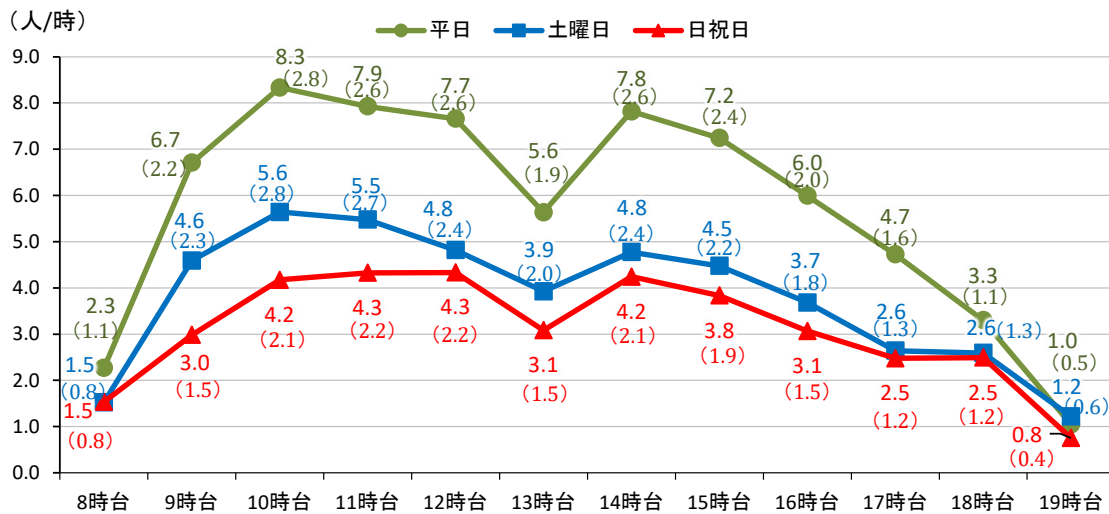
- 平成27年のおでかけなんじいの有償化以降、タクシーは今回も含め、初乗り運賃が100円上がっており、タクシーに比べおでかけなんじいの運賃が割安になっています。
- 土曜日及び日祝日はほぼ全時間帯で、平日は8時台、18時台以降の利用が少なくなっています。
- おでかけなんじいは、運行見直し基準が設定されていますが、設定されたH28と現在では、おでかけなんじいの運行状況、利用状況が異なっており、実態が反映されていません。

検討課題

- Nバスを補完するという「おでかけなんじい」の役割の変化、現状の利用状況を踏まえ、コロナ禍で見送られていた「おでかけなんじい」の増減便等の運行計画の見直しが必要とされます。
- 導入時と状況が大きく変わっているおでかけなんじいの運行見直し基準についても再検討とされます。
- タクシーに比べ割安となっているおでかけなんじいの運賃の見直しが必要とされます。

表-2.タクシーの初乗り運賃の改定状況

値上げ時期	改定内容（初乗り運賃）	値上げ幅	備考
平成28年11月	500円→550円	50円	
令和元年10月	550円→560円	10円	・消費増税に伴う値上げ
令和5年10月	560円→600円	40円	・燃料費・車の部品費の高騰、乗員不足に伴う稼働率の低下による経営環境の悪化のため ・改定内容は各事業者による



※()内の数字は1便当たりの利用者数

図-8.おでかけなんじいの曜日別・時間帯別の平均利用者数(令和4年度)

3 見直し内容の検討

2で整理した問題・課題を踏まえ、「おでかけなんじいの運行計画の見直し」、「おでかけなんじいの運行見直し検討基準の再検討」、「おでかけなんじいの運賃見直し」について検討しました。

3.1 おでかけなんじいの運行計画の見直し

(1) 運行計画の見直し案の検討

- バス・タクシーの運転手不足が深刻で、今後の維持が懸念される中、さらに、最低賃金の引上げ、2024年4月からは時間外労働の上限規制が適用されることから、運転手を確保するため、運行日・時間帯を絞り込む必要があります。
- 燃料費高騰やタクシー運賃値上げ等の社会情勢を鑑みると運賃値上げを検討すべきですが、まずは運行計画の見直しで効率化を図り、利用状況を注視したうえで、運賃の値上げについては実施すべきだと判断しました。
- 令和4年度の利用状況をみると、平日に対して、土曜日、日祝日の利用が少なく、時間帯別では、平日、土曜日、日祝日ともに8時台、18時台、19時台の利用が比較的少なくなっています。
- 令和4年度の利用状況を踏まえ、1台/hで2人以上の乗合が連続的に生じている時間帯を軸に検討を行いました。見直し後に利用時間帯の移動があることを考慮し、平日は9時台～17時台、土曜日、日祝日は9時台～15時台としました。
- なお、運行台数は2人以上/台を基準としつつも、基準を下回っている平日の17時台においては9～16時台との連続性を考慮し3台/h運行とし、日曜日の9時台、15時台においても連続性を考慮し2台/h運行としました。(次ページ参照)

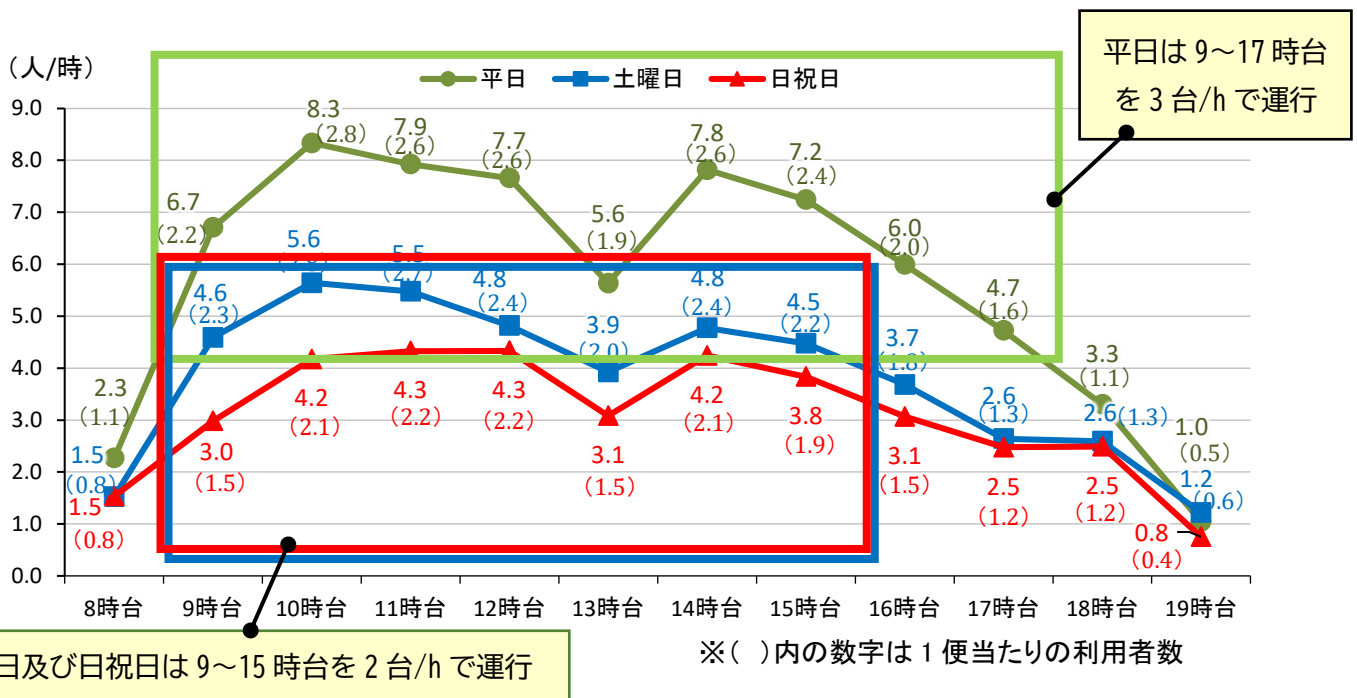


図-9.おでかけなんじいの曜日別・時間帯別の平均利用者数(令和4年度)

表-3.おでかけなんじいの運行計画の見直し案(数字は運行便数)

区分	曜日	時間帯											計	
		8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時		19時
現状	平日	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	34
	土曜日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	日祝日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
見直し案	平日	—	3	3	3	3	3	3	3	3	3	—	—	27
	土曜日	—	2	2	2	2	2	2	2	—	—	—	—	14
	日祝日	—	2	2	2	2	2	2	2	—	—	—	—	14

※見直し案の朱書き部分は、1便当たりの利用者数2.0人/hを達成していないものの、運行時間帯の見直し後に利用者の時間帯移動があることを考慮して、運行することとした。

(2)見直し案による影響

【平日】

- 見直し案では、平日は8時台、18時台、19時台が削減されますが、現状の同時間帯の利用状況をみると、令和4年度の1年間で約1,600回の利用がありました。
- そのうち、204回は久手堅～福原の移動が占めており、特定の個人の通勤などに利用されていると思われます。
- 次いで、富祖崎～つきしろの移動が71回と多いですが、その他は利用区間が分散しています。

表-4.平日8時台、18時台、19時台で利用が多い区間(令和4年度、上位10区間)

順位	利用区間	利用回数
1	久手堅～福原	204
2	富祖崎～つきしろ	71
3	仲程～大里グリーンタウン	42
	高宮城～大里グリーンタウン	42
5	津波古～西原	39
	新里～島袋	39
7	津波古～つきしろ	30
8	百名～嶺井	28
9	前川～稲嶺	27
10	百名～古堅	26

【土曜日・日祝日】

- 見直し案では、土曜日・日祝日は 8 時台、16 時台から 19 時台が削減されますが、現状の同時間帯の利用状況をみると、令和 4 年度の 1 年間で約 1,200 回の利用がありました。
- そのうち、102 回は平日同様に久手堅～福原の移動が占めており、特定の個人の通勤などに利用されていると思われます。
- その他では堀川～津波古が 45 回とやや多く、その他は利用区間が分散しています。

表-5.土曜日及び日祝日 8 時台、16 時台から 19 時台で利用が多い区間(令和 4 年度、上位 10 区間)

順位	利用区間	利用回数
1	久手堅～福原	102
2	堀川～津波古	45
3	高宮城～大里グリーンタウン	35
4	津波古～つきしろ	32
5	津波古～手登根	30
6	安座真～津波古	29
7	仲程～大里グリーンタウン	28
8	津波古～西原	27
9	吉富～津波古	23
10	吉富～高宮城	16

3.2 運行見直し基準の再検討

- 平成 28 年度に設定された運行見直し検討基準は、当時「おでかけなんじい」が向陽高校まで乗り入れていたこともあり、平日 18 時台、19 時台の便を維持できるように検討された背景があります。
- 現在、向陽高校への登下校以外にも、主要な買い物先、通院先への移動は N バスが担っており、平成 28 年度設定時のように、特別に維持すべき便はないと考えられます。
- 「おでかけなんじい」は乗合を前提に運行していることから、**平均乗車人員 2.0 人/台を運行取りやめの基準とすることを提案**します。
- また、3 便から 2 便への減便も、同様に 2.0 人/台を基準とします。
- 2 便から 3 便への増便は、増便しても減便の基準を満たすことを考慮し、3.0 人/台（1 時間当たり 6.0 人の利用、3 台運行時で 2.0 人/台）とします。
- なお、運行計画の見直し案では、平日の 17 時台、日祝日の 9 時台、15 時台が基準を満たしていませんが、**運行時間帯の見直し後に利用者の時間帯移動があることを考慮し、運行見直し後の周知を図ることで利用を促していきます。**

表-6.運行見直し検討基準の改訂案

項目		現行基準	改定基準案	備考
減便	3 台→2 台	2.0 人/台未満	2.0 人/台未満	乗合としての維持を考慮
運行取り止め		0.5 人/台未満	2.0 人/台未満	//
増便	2 台→3 台	3.5 人/台以上	3.0 人/台以上	増便後も 2.0 人/台
	3 台→4 台	4.0 人/台以上	3.0 人/台以上	//

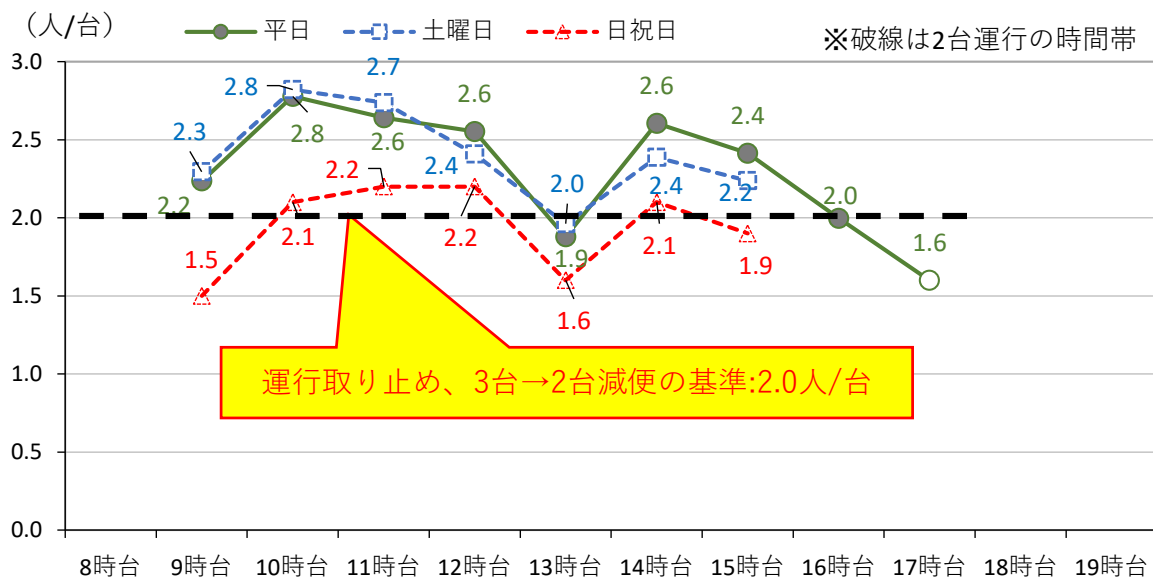


図-10.運行見直し案における利用状況と運行見直し検討基準の改定基準との関係

3.3 運賃の見直し検討

- 運賃については、運行計画の見直し後の利用状況をもて、検討する予定ですが、ここでは、現時点の考え方を整理しました。
- 今回の運賃見直しの背景に、おでかけなんじいの有償化以降、タクシー運賃に対しおでかけなんじいの運賃が割安となったことが問題視（民業圧迫の観点）されています。5kmの区間を利用した場合の平成27年（2015年）のタクシーとおでかけなんじいの運賃差が760円であったのに対し、今年のタクシーの運賃値上げで、75歳以上については運賃差が1,300円と大きく拡大しており、運賃差を縮小するためにも、おでかけなんじいの値上げは必要と考えられます。
- タクシーとの運賃格差の是正、おでかけなんじいの持続可能な運行のため、運賃見直し案（たたき台）として、75歳以上については300円に戻し、75歳未満は、現状と同じ500円とすることが考えられます。また、運賃見直しに際しては様々な視点から丁寧な議論が必要だと考えております。

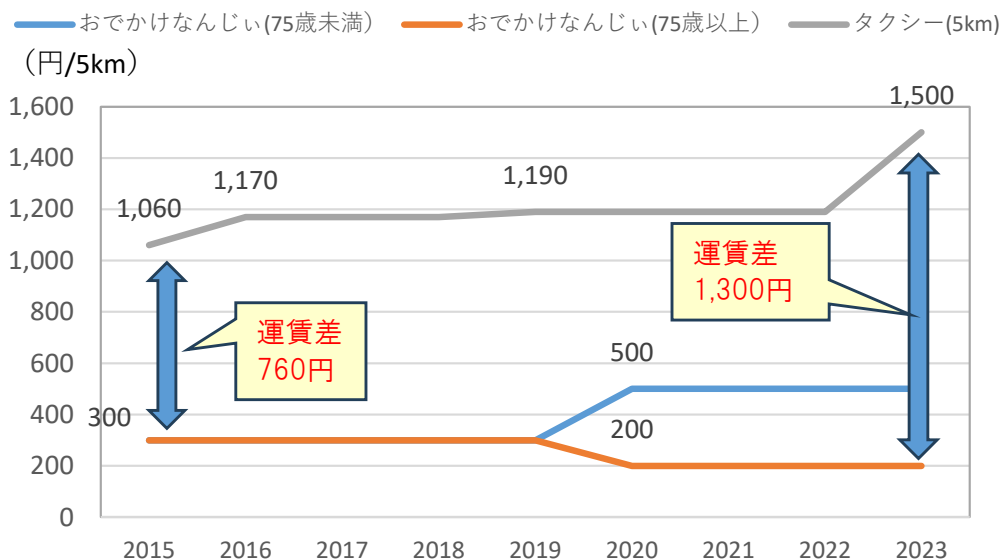
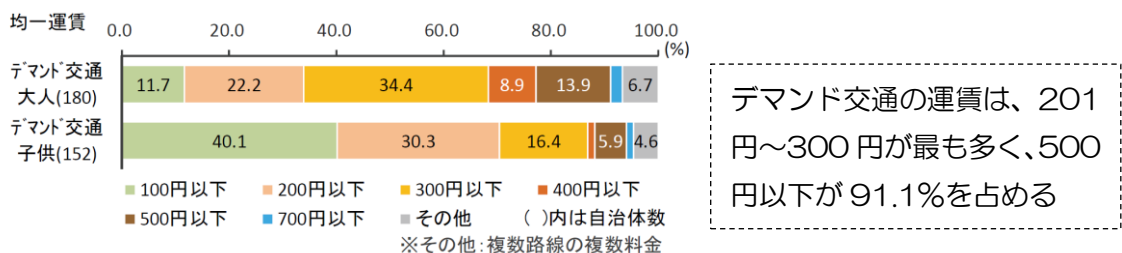


図-11. おでかけなんじいとタクシー(5km 利用時)の運賃の推移

表-7. 運賃の見直し案(たたき台)

区分	現行	見直し案	増減
75歳以上	200円	300円	100円値上げ
75歳未満	500円	500円	据え置き

～参考 全国のデマンド交通の運賃～



出典：地方別人口規模別にみたコミュニティバス及びデマンド交通の運営状況(2019.2. 交通工学論文集、辰巳浩他)

4 今後の進め方について

- 今回、おでかけなじいの運行計画の見直し（たたき台）等についてご意見を伺いましたが、次回の交通会議（令和6年1月31日開催予定）に向け、引き続き検討を行い、**今年度で見直し案を決定し、令和6年10月より見直した計画で運行予定**です。
- 次回の会議においては、Nバスの運行計画の見直しも議題として予定しています。